

第5学年「体育」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 運動の楽しさや喜びを味わう児童が多く、特にゲーム領域では個人差に関わらず意欲的に取り組む児童が増えた。
 - 規則を工夫したり、チームの課題に合わせた作戦を選んだりする様子が見られた。
- 課題**
- ▼ 運動技能や運動の関わる知識の個人差が大きい。
 - ▼ 特にゲーム領域において、お互いの考えを認め、勝敗を受け入れること。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 自己やチームの課題を把握し、その解決のために考えを伝え合うことで、練習を工夫したり作戦を立てたりできるような課題解決力。
- ◇ 規則を守り、勝敗を受け入れたり友達の考えを認めたりする態度。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 振り返りを基に、自己やチームの課題を把握し、次時の活動につなげる。
- 児童がルールや場の設定を工夫して、みんなが楽しい運動を自分たちで考える。

言語活動の工夫

- 学習カードや作戦ボードなどを用いることで、お互いの考えを伝えやすくするとともに、共有化しやすくする。

ICT活用の工夫

- タブレットを活用し、自分やチームの運動している姿を客観的に見ることができるようにし、課題解決につなげる。

課題解決力育成の工夫

- 毎時間のめあてを明確にし、振り返りを基にした個の時間と、作戦タイムやコツ共有タイムなどの協働する時間を組み合わせる。

達成目標

- その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて方法や活動を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。
- 運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。